

2025 年 11 月

# グラフで見る和歌山県経済指標

## 和歌山県経済は、総じて弱さが見られる

内閣府の月例経済報告（2025 年 11 月 26 日公表）において、「景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している」との判断が維持された。個別項目では、「輸入」において基調判断が引き下げられた。

以下では、「全国の情勢」、「和歌山県の情勢」を主要経済指標（主に 10 月の値）に基づき報告する。

### 全国の情勢

① 需要動向に関して、「個人消費」「輸出」「設備投資」「住宅建設」「公共投資」について、判断が維持された。一方で、スマートフォンや衣類など、アジアからの輸入が弱かったことを踏まえ、「輸入」に関する判断が引き下げられた。

② 企業活動に関して、「業況判断」「生産」「倒産件数」「企業収益」に関する判断が維持された。

③ 雇用情勢に関しては、「改善の動きがみられる」との判断が維持された。

④ 物価に関しては、「消費者物価」については、「上昇している」との判断が維持された。一方、「国内企業物価」については、コメ価格の高騰や銅価格の上昇を反映し、「このところ緩やかに上昇している」へと表現を変更した。

⑤ 世界経済に関しては、「世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている。ただし、米国の関税率引上げに伴う不透明感が続いている」に表現が変更された。国・地域別では、2025 年 7～9 月期の GDP 成長率を踏まえ、ヨーロッパ地域については判断が引き上げられた一方、英国は判断が引き下げられた。

### 和歌山県の情勢

① 個人消費面では、**百貨店・スーパー販売額（10 月）**は、前年同月と同じ販売額となった。近鉄百貨店和歌山店の販売額（10 月）が前年同月比 3.4%増となった一方で、スーパー販売額は前年同月を下回る水準で推移している。

全国的にはインバウンド（訪日外国人客）向けの百貨店販売額が 8 カ月ぶりに増加した。スーパー販売額は、物価高により店頭価格が上昇するも、家計の節約志向もあり、全体の販売額が伸び悩んでいる。

**新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、10 月）**は、前年同月比 9.6%減となり、4 か月連続で前年を下回った。登録車、軽乗用車ともに前年を下回っている。新車の投入が少ないことが要因のひとつとみられる。

1 月～10 月の累計販売台数は 3,129 台となった。前年同時期には一部自動車メーカーによる認証不正問題で販売台数が大きく落ち込んでいた時期があり、前年同期比では 1.8%増だが、23 年同時期比では 7.5%減となっている。

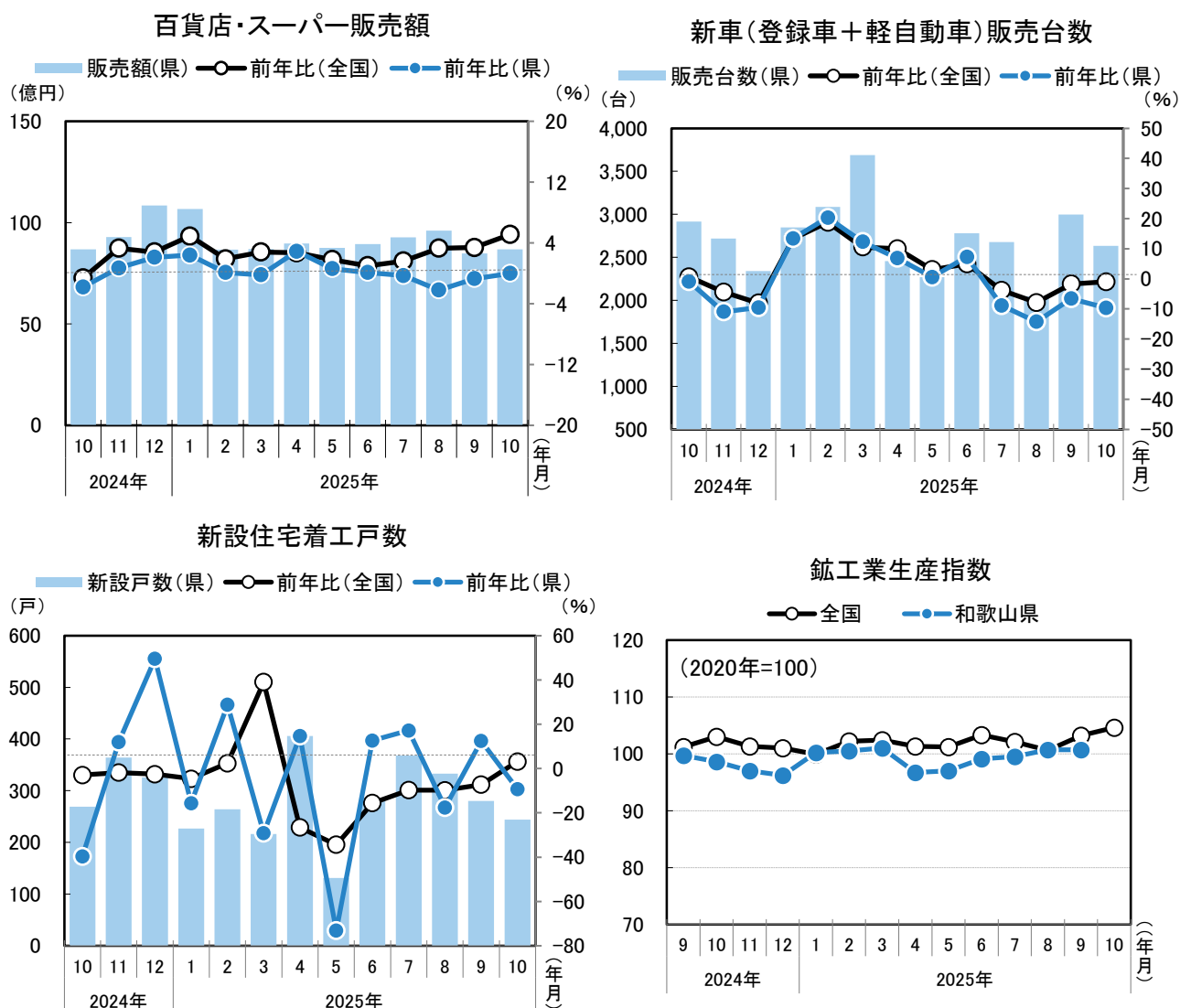
**新設住宅着工戸数（10 月）**は、前年同月比 9.3%減（2 か月ぶりに前年を下回る）。1 月～10 月の累計着工戸数は 2,754 戸であり、前年同時期比では 356 戸減少しており、直近 10 年間では最も少なくなっている（最も多かったのは 2019 年で 4,236 戸）。内閣府「月例経済報告」によると、住宅建設は「弱含んで」おり、持家及び分譲住宅が弱含んでいる。先行きについては当面弱含みで推移することが見込まれるとしている。

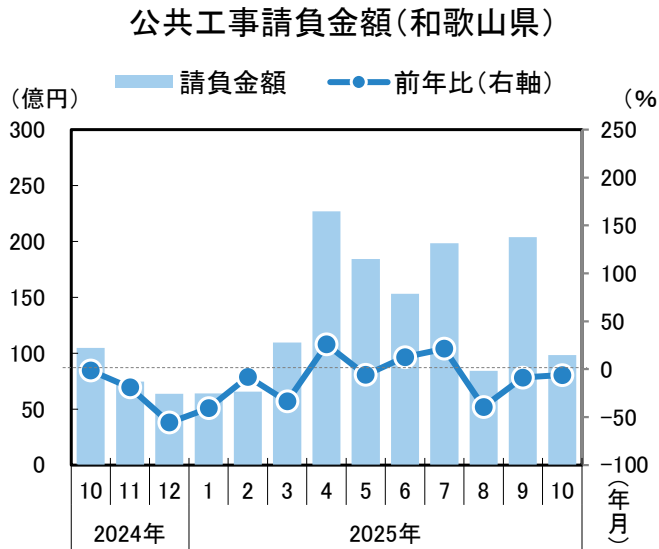
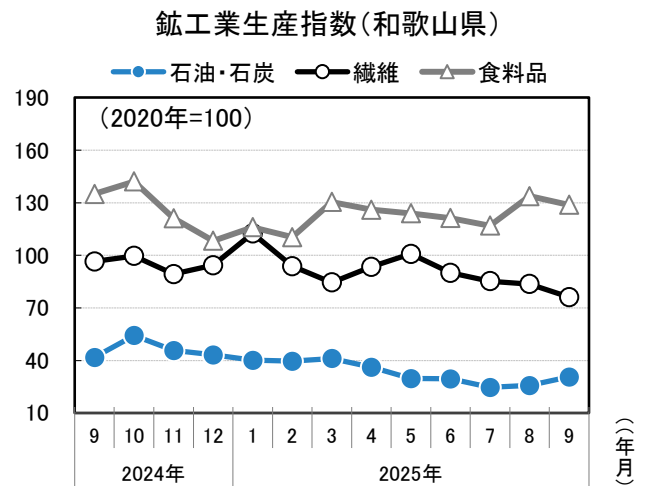
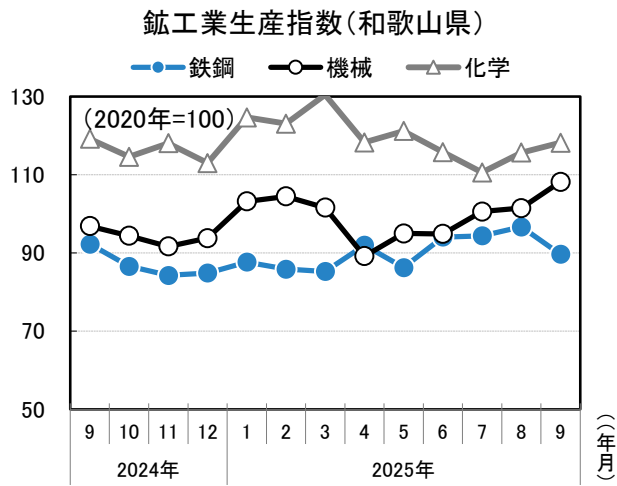
② 企業活動面では、**鉱工業生産指数（9月）**は、100.7 となっており、前月から横ばいとなった。2023年10月にENEOS和歌山製油所が操業を停止したことで、石油・石炭製品工業の生産指数が極めて低い水準にある。ただし、化学工業や食料品工業、はん用機械工業の生産指数は高い水準で推移している。その一方で、主力業種である鉄鋼業が低調で、県内製造業の生産状況は「一進一退」の状況にある。

**公共工事請負金額（10月）**は、前年同月比6.2%減となり、3か月連続で前年を下回った。内閣府「月例経済報告」によると、国内の公共投資は「堅調に推移」しており、10月の公共工事請負金額は、前年同月比18.1%増となっている。ただし、全国生コンクリート工業組合連合会によると、10月の全国生コン出荷量は前年同月比7.3%減で、現場の人手不足や働き方改革による工事時間短縮により工事進捗に遅れが見られる。

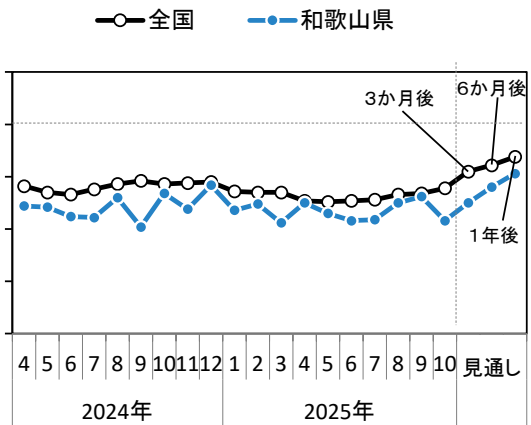
帝国データバンクが発表している**県内TDB景気DI（10月）**は、40.8と前月から2.3ポイント下降した（4か月ぶりに悪化）。和歌山県の値は全国と近畿の値を下回った。「大企業」が前月比7.5ポイント下降、「中小企業」が同1.7ポイント下降と、「大企業」の下降幅が大きい結果となった。このような状況の中で、帝国データバンクは、「企業ごとに創意工夫の努力や新規開拓力の差もあって、当面は一進一退の動向が続く可能性が高い」としている。

③ 雇用面については、**有効求人倍率（10月）**は、前月から0.02ポイント低下し、1.05となった。有効求人倍率が1.05以下となるのは2021年3月（1.04）以来、約4年半ぶり。新規求人数については、製造業、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業で減少傾向が見られる。このような状況について、和歌山労働局では、「雇用情勢は、求人が求職を上回る状況が続いているが、持ち直しの動きに弱さがみられる。引き続き、物価上昇等が雇用にも与える影響に注意する必要がある。」としている。

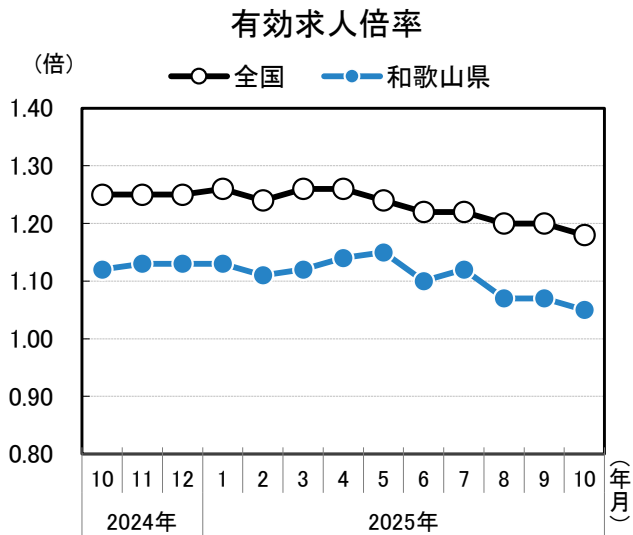




TDB景気DI (判断の分れ目は50)



(資料)株式会社データバンク



## (1)個人消費面

	百貨店・スーパー販売額			新車販売台数(*登録+軽)			新設住宅着工戸数		
	販売額 (億円)	全国 (前年比)	和歌山県 (前年比)	販売台数 (台)	全国 (前年比)	和歌山県 (前年比)	着工戸数 (戸)	全国 (前年比)	和歌山県 (前年比)
2019年	1,188	-1.1	-1.9	38,733	-1.6	-0.6	5,188	-4.0	5.1
2020年	1,133	-5.4	-5.4	33,942	-11.6	-12.4	4,514	-9.9	-13.0
2021年	1,093	0.9	-3.7	32,416	-3.3	-4.5	4,591	5.0	1.7
2022年	1,090	3.8	-0.3	30,549	-7.0	-5.8	4,758	0.4	3.6
2023年	1,106	4.6	1.5	20,583	18.4	19.0	3,958	-4.6	-16.8
2024年9月	85.5	1.8	-2.0	3,210	0.6	2.5	249	-0.6	-28.0
10月	86.9	-0.6	-1.8	2,915	0.7	-0.9	269	-2.9	-39.7
11月	92.9	3.3	0.7	2,717	-4.4	-10.9	364	-1.8	12.0
12月	108.5	2.8	2.1	2,342	-8.0	-9.5	326	-2.5	49.5
2025年1月	106.7	4.9	2.4	2,847	13.3	13.4	227	-4.6	-15.6
2月	86.8	1.9	0.1	3,087	18.7	20.3	264	2.4	28.8
3月	87.0	2.8	-0.2	3,687	10.5	12.3	216	39.1	-29.2
4月	89.7	2.7	2.9	2,458	10.0	6.8	406	-26.6	14.7
5月	87.6	1.8	0.6	2,269	3.1	0.6	131	-34.4	-73.2
6月	89.5	1.0	0.1	2,779	5.0	7.3	285	-15.6	12.6
7月	92.8	1.6	-0.3	2,679	-3.8	-8.9	368	-9.7	17.2
8月	96.1	3.3	-2.2	2,049	-7.9	-14.3	333	-9.8	-17.6
9月	84.9	3.4	-0.7	2,999	-1.7	-6.6	280	-7.3	12.4
10月	86.9	5.1	0.0	2,634	-1.0	-9.6	244	3.2	-9.3

(2025年12月1日に取得可能な資料より作成)

## (2)企業活動面

	鉱工業生産指数(2020年=100)								公共工事請負額		TDB 景気DI
	全国	和歌山県	鉄鋼	機械	化学	石油石炭	繊維	食料品	請負金額 (億円)	和歌山県 (前年比)	
2019年	111.6	102.7	110.3	100.8	100.5	95.4	106.6	138.0	1,585.1	6.6	
2020年	100.0	88.9	81.3	85.0	92.6	76.5	105.0	119.5	1,847.2	16.5	
2021年	105.4	88.4	78.1	89.9	85.6	68.6	101.8	139.8	1,806.3	-2.2	
2022年	105.3	97.2	83.9	98.2	95.8	110.6	104.6	142.8	1,584.1	-12.3	
2023年	103.9	89.8	78.3	92.0	91.2	86.8	104.0	139.4	1,711.6	8.0	
2024年9月	101.2	99.7	92.3	96.9	119.2	41.8	96.5	135.0	223.2	26.2	40.2
10月	103.0	98.6	86.6	94.4	114.6	54.3	99.6	142.1	104.9	-1.5	43.4
11月	101.3	97.0	84.3	91.7	118.1	45.7	89.3	121.1	74.7	-19.0	41.9
12月	101.0	96.2	84.9	93.8	113.0	43.2	94.3	108.3	63.8	-55.7	44.2
2025年1月	99.9	100.2	87.7	103.2	124.7	40.1	112.5	116.0	63.9	-40.7	41.8
2月	102.2	100.5	85.9	104.5	123.1	39.6	93.8	110.3	65.7	-8.1	42.4
3月	102.4	101.0	85.3	101.6	130.5	41.1	84.5	130.4	109.4	-33.6	40.6
4月	101.3	96.7	92.0	89.2	118.3	36.2	93.4	126.0	226.9	25.8	42.5
5月	101.2	97.0	86.3	95.0	121.2	29.7	100.8	123.9	184.3	-6.0	41.5
6月	103.3	99.1	94.1	94.9	115.8	29.5	90.0	121.2	153.1	12.6	40.8
7月	102.1	99.5	94.4	100.6	110.6	24.7	85.2	116.9	198.3	21.4	40.9
8月	100.6	100.7	96.7	101.5	115.7	25.7	83.6	133.7	84.4	-39.5	42.5
9月	103.2	100.7	89.7	108.2	118.2	30.6	76.1	128.8	203.7	-8.7	43.1
10月	104.6								98.4	-6.2	40.8

(注)鉱工業生産指数は季節調整値[ただし、年次値は除く]

(2025年12月1日に取得可能な資料より作成)

## (3)雇用面

	有効求人倍率		有効 求人 数 (人)	有効 求職者 数 (人)	充足率	
	全国 (倍)	和歌山県 (倍)			パートタイム 除く(%)	パートタイム (%)
2019年	1.60	1.41	17,920	12,699	17.6	17.1
2020年	1.18	1.05	15,107	14,373	16.2	18.8
2021年	1.13	1.09	16,195	14,876	15.2	18.2
2022年	1.28	1.15	16,977	14,777	14.8	16.8
2023年	1.31	1.13	16,340	14,409	14.7	18.2
2024年9月	1.25	1.13	16,340	14,492	12.7	17.7
10月	1.25	1.12	16,265	14,532	14.5	16.4
11月	1.25	1.13	16,439	14,607	13.2	17.0
12月	1.25	1.13	16,484	14,619	12.0	14.7
2025年1月	1.26	1.13	16,565	14,600	10.2	13.5
2月	1.24	1.11	16,292	14,683	12.3	18.3
3月	1.26	1.12	16,274	14,492	18.4	22.5
4月	1.26	1.14	16,192	14,194	15.0	20.2
5月	1.24	1.15	16,502	14,298	12.0	20.9
6月	1.22	1.10	16,150	14,635	15.6	19.5
7月	1.22	1.12	16,209	14,495	12.3	19.2
8月	1.20	1.07	15,803	14,790	12.9	16.4
9月	1.20	1.07	15,723	14,704	12.8	18.0
10月	1.18	1.05	15,412	14,696	14.0	18.7

(2025年12月1日に取得可能な資料より作成)

(注1)有効求人倍率、有効求人数、有効求職者数は季節調整値[ただし、年次値は除く]

(注2)「充足率」とは、事業者が希望通りの人員数を確保できるかどうかを数値で表したものであり、数値が低いほど、人材の確保が難しい。